

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 ：一般国道32号 <small>いの はな どうろ</small> 猪ノ鼻道路 起終点 ：自：香川県三豊市財田町 財田上 至：徳島県三好市池田町 州津	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 四国地方整備局 延長 ：8.4km	
事業概要 ： 国道32号は、香川県高松市を起点とし徳島県三好市を経由して高知県高知市に至る全長約140kmの、香川県・徳島県・高知県を結ぶ広域幹線道路ネットワークである。 当該事業は、異常気象時における通行止めの解消や、冬期の積雪区間、連続する急勾配やヘアピンカーブの回避による安全性の向上により安全で信頼性のある交通機能を確保するとともに、徳島県西部地域と香川県西部地域の連携強化を目的とした延長8.4kmの道路である。			
H15年度事業化	H一年度都市計画決定 (H-年度変更)	H19年度用地着手	H19年度工事着手
全体事業費 ：432億円		事業進捗率 ：約24%	供用済延長 ：0.0km
地域の防災面の課題 ： ・一般国道32号猪ノ鼻峠は、山間部を通過し、法面崩落や路肩崩壊など防災上危険な箇所が51箇所、線形不良箇所(R≤80m)が28箇所、7%の急勾配区間が2箇所存在 ・平成16年12月6日の法面崩落災害では、約97時間にわたって全面通行止めとなった ・事前通行規制区間(L=11.0km)が存在し、H15～H24の10年間は、約6日(延べ5回)の全面通行止めが発生している。 ・また、積雪によりH15～H24の10年間は、69.7時間/年に及ぶチェーンの必要な期間等があった。 ・このため、地域住民が日常生活を営む上で重大な障害及び不安要素となっており、地域の喫緊の課題となっている。			
課題を踏まえた対策・事業内容 ： ・多数の法面崩壊等の危険箇所を回避するため、バイパスを整備。 ・全線で現道対策を行う場合、大規模な法面对策工事が必要となるため、バイパスとした。			
事業の効果等 ： ①異常気象時における事前通行規制区間(L=約11km)の解消 ②緊急輸送道路の信頼性向上 ③線形不良箇所の回避による走行性・安全性の向上 ④走行時間の短縮等<通行止めによる迂回の解消、冬期の通行障害の解消>(451億円(残事業=451億円))		費用 ： (残事業) / (事業全体) 268 / 398億円 事業費 ：252 / 382億円 維持管理費 ：16 / 16億円	
関係する地方公共団体等の意見 ： 地域から頂いた主な意見等： ・徳島県、徳島県三好市、徳島県三好市議会、香川県、香川県三豊市、香川県三豊市議会、四国びとみらい実行委員会から本事業の整備推進について、積極的な要望活動が続けられている 徳島県知事の意見： ・「猪ノ鼻道路」の事業を継続するという「対応方針(原案)案」については、異議ありません。 一般国道32号は、徳島と香川、高知を結ぶ主要幹線道路であり、県西部の産業、文化を育む重要な道路であります。 しかしながら、徳島・香川県境に位置する猪ノ鼻峠付近は、大雨による事前通行規制や冬期の凍結や積雪による通行障害、線形不良による交通事故の多発など、安全性、定時性に大きな問題を抱えております。 「猪ノ鼻道路」は、これらの問題を解消し、沿線地域の日常生活を支えるとともに、災害時には緊急輸送道路としての役割を担う、なくてはならない道路であり、また、徳島県西部と香川県西部の連携強化や「にし阿波観光圏」における観光振興など、地域の活性化にも資する重要な道路であります。 このため、引き続き、コスト縮減を推進し、早期供用に向け、事業の着実な実施をお願いします。 香川県知事の意見： ・「対応方針(原案)案」の事業継続について、異議ありません。			
事業評価監視委員会の意見 ： ・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。			

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成19年 4月 国道319号善通寺バイパス バイパス区間完成開通
- ・平成20年 7月 高知自動車道 新宮～大豊間、南国～高知間 4車線化
- ・平成20年12月 国道32号綾南・綾歌・満濃バイパス丸亀市綾歌町岡田上地区 暫定開通（全線開通）
- ・平成24年12月 国道32号綾南・綾歌・満濃バイパス 全線4車線完成開通
- ・平成20年 7月 大型ショッピングセンター（香川県綾川郡綾川町）オープン
- ・平成25年 4月 にし阿波～剣山・吉野川観光圏 認定
- ・平成25年 5月 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター（香川県善通寺市） 開院

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成25年5月末で用地取得率約99%、平成25年3月末で事業進捗率約24%
- 残事業の内容（新猪ノ鼻トンネル L=4,187m 箸蔵第1トンネル L=155m 箸蔵第1橋 L=30m 等）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・引き続き、早期開通に向けて事業を進める

施設の構造や工法の変更等

- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の事業効果等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※1 事業の効果等に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。